

分析結果報告書〔5〕1/3

1. 5 模擬排水試料（ふっ素及びその化合物）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. MLAP 4. (上記1～3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	()
経験年数(年)	()年
実績(年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

1回目(mg/L) 注1～4)	() mg/L
2回目(mg/L) 注1～4)	() mg/L
3回目(mg/L) 注1～4)	() mg/L
Z-スコアの報告書資料編への記載 注5)	1. 希望する 2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけ JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 共通試料1-2を水で10倍希釈して調製した分析用試料中の濃度(mg/L)を記入する。

注5) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

<分析方法等>

試料受取日	()
分析開始までの試料保存日数(日)	()日
分析日数(日)	()日
分析方法	1. ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法 2. イオン電極法 3. イオンクロマトグラフ法 4. 流れ分析法 注) 5. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

注) 「流れ分析法」とは、FIA(フローインジェクション分析)及びCFA(連続流れ分析法)を指す。

<蒸留操作> (蒸留操作は必須：実施要領参照)

試料分取量(mL) 注)	() mL
濃縮	1. 行う 2. 行わない
蒸留 蒸留容器の温調方法	1. 温度計とヒーターのサーモスタットによる方法 2. 2重蒸留管を用い、外側に沸点146℃の1,1,2,2-テトラクロロエタンを入れる方法 3. その他()
使用した酸	1. 過塩素酸 2. 硫酸 3. 過塩素酸及びリン酸 4. 硫酸及びリン酸 5. その他()
受器(全量フラスコ)容量(mL)	1. 250 mL 2. その他() mL
吸収液	1. 使用しない 2. 水酸化ナトリウム溶液 3. その他()
留出液の中和	1. 行う 2. 行わない
留出液の定容量(mL)	1. 250 mL 2. その他() mL

注) 10倍希釈後の試料を分析に使用した量を記入する。

<ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法>

前記 <蒸留操作>	1. 行う 2. 行わない
留出液の分取量(mL)	() mL
ランタン-アリザリンコンプレキソン溶液	1. 酸化ランタン・アリザリンコンプレキソン等より調製 2. 市販のアルフッソンより調製 3. その他()
測定波長(nm)	1. 620nm 2. その他() nm

<イオン電極法>

前記 <蒸留操作>	1. 行う 2. 行わない
留出液の分取量(mL)	() mL

分析結果報告書〔5〕 2/3

<イオンクロマトグラフ法>

前記 <蒸留操作>	1. 行う 2. 行わない
留出液の希釈倍率 注)	()
溶離液の種類	1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナトリウム溶液 4. その他()
ガードカラムの使用	1. 使用する 2. 使用しない
分離カラム メーカー	1. サーモフィッシャー(ダイオネクス) 2. 島津製作所 3. 東ソー 4. メトローム 5. その他()
型式	()
イオンクロマトグラフ メーカー	1. サーモフィッシャー(ダイオネクス) 2. 島津製作所 3. 東ソー 4. メトローム 5. その他()
型式	()
区分	1. サプレッサー型 2. ノンサプレッサー型
注入量 (μL)	() μL

注) 留出液を希釈した場合に記入する。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<流れ分析法>

前記 <蒸留操作>	1. 行う 2. 流れ分析装置内で行う 3. 行わない
留出液の希釈倍率 注)	()
装置 メーカー	1. ビーエルテック 2. 三菱ケミカルテック 3. その他()
型式	()
蒸留装置	1. 含む(型式:) 2. 含まない
注入量 (mL)	() mL

注) 留出液を希釈した場合に記入する。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<標準液>

標準液メーカー名	()
使用時の濃度保証	1. 保証期間内 2. 保証期間超過
ファクター	()
Lot番号	()

<定量方法・下限値>

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
内標準法: 内標準物質の種類	()
検出下限値 (mg/L)	() mg/L 注)

注) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

<試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他()
試料の保存処理	1. 行った その方法() 2. 行っていない
保存温度 (°C)	約()°C

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--

分析結果報告書〔5〕 3/3

<検量線>

単位		1. $\mu\text{g/mL}$ 2. μg 3. その他 ()			
検量線		ふっ化物イオン		内標準物質 注2)	
		量または濃度 注1)	応答値	内標準物質質量または 濃度	応答値
検量線標準液 (1を最低濃度 とし、番号順 に高濃度とす る)	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
空試験 注3)		—			
共通試料1回目 注4)		—			
共通試料2回目 注4)		—			
共通試料3回目 注4)		—			

注1) 検量線標準液の濃度を記入する。

注2) 内標準物質を使用していない場合は空欄とする。

注3) 標準添加法では記入しない。

注4) 標準添加法では添加のない試料の値を示す